

秋山和慶

人生は各駅停車で

第2回

鉄道の旅はゆつくりと



ヴェネツィア発ロンドン行きのアリエント急行。途中のインスブルックで乗務員と記念撮影。



アリエント急行の食堂車でアフタヌーンティー。

音楽と同じく、小さい頃から今も夢中なのが鉄道です。幼い頃は電車の運転手になることが夢でした。幼稚園のときから電車で通学していましたが、当時のラッシュアワーは今以上に超満員で、背丈が足りない子供にとっては窒息しそうなほどでした。そんな僕を見かねたのか、ある日運転手が「坊主、乗ってくか？」と運転台に乗せてくれたんです。それ以来、毎朝運転台に乗って通学したんですよ。そのうち運転手は僕を膝の上に乗せてくれて、運転の操作を教えてくださいましたね。毎日やっていたら、やみつきになってしまいました。今そんなことをしたら大変ですが、山手線一周を運転させてもらったこともあるんですよ。

鉄道は、時間をかけて乗るのが楽しいですね。新幹線は便利だから使うけれど、できることならば在来線で時間をかけて行きたい。先日、広島島の演奏会が終わったあとは、最終の新幹線で姫路まで行き、そこから寝台列車「サンライズ瀬戸・出雲」に乗って帰ってきました。二晩じゅう「タターンタターン」と列車の音を聴きながら乗るのがいいんです。

最近乗った鉄道で思い出深いのは、もう2年くらい前ですが、スイスの氷河急行とベルニナ急行です。仕事でイギリスに行ったついでに1週間ほど休みをとって乗ってきました。8月で、景色がともきれいでしたよ。帰りは、ヴェネツィア始発のアリエント急行に乗ってロンドンまで戻ってきました。

アメリカやカナダだと、飛行機なら2〜3時間で行けるところを鉄道は3日3晩かかってしまいますよね。大平原を走るから二晩経つても景色は同じで「動いてないのか？」なんて思ったりもします。でもロッキーマウンテンを越えるときは美しいですよ。うねうねとカーブしながら、トンネルをくぐったり。とはいえ、やはりヨーロッパの景色には敵いません。

旅の楽しみのひとつに食堂車もあります。外国の列車は第一級のシェフが作っていて本格的です。でも日本はどんな食堂車をなくしてしまっていますね。鉄道の目的が、点と点をいかに速く結ぶか、だけになってしまっている。それが残念です。

音楽家には鉄道ファンが多いんですよ。指揮者の大長老の近衛秀麿先生もそうでしたし。リズム的な心地よさが鉄道と音楽に通じるんでしょうかね。昨年、指揮者の増井信貴さんの企画で音楽家仲間5、6人が集まって、掛け替えになる山陰本線の余部鉄橋の渡り納めと、ディーゼル特急のキハ82系の引退を惜しみ「かにカニはまかせ号」に乗ってきました。鉄道好きが高じて鉄道模型も大好きなのですが、これは別の機会にお話ししましょう。



◎川村悦生

秋山和慶

1941年生まれ。64年2月に東京交響楽団を指揮してデビューのち音楽監督・常任指揮者を40年間務める。東京交響楽団桂冠指揮者、ミュンヘン・ザルツブルグ交響楽団首席指揮者、ザルツブルグ・シュルツェンホルン・オーケストラ首席指揮者。

(談)